

ガンバレの目玉焼き

井川
いすみ
作

登場人物 ..

麦子

目玉焼きしか作らない。仕事を辞めたい、けど辞められない。悩んでいる。

伊織

麦子の幼馴染。麦子の実家の隣に住んでいる。拓の妹。

仕事の関係で都会に出てきて、麦子の家に連泊している。

場所 ..

麦子の家。キッチン。朝七時頃。

△焦げた目玉焼き▽

伊織がフライパンを持って歩いている。

麦子が現れる。

伊織 おはよー

麦子 わ

伊織 ？

麦子 おはよう……

伊織 そうやって、驚くの、止めてよね

麦子 ええ……ええ？

伊織 何よ？

麦子 ああ……えっと……これは……

伊織 ん？

麦子 フライパン……

伊織 ああ、これね

麦子 何してるの？

伊織 作ってるの

麦子 え……何をですか？

伊織 え。目玉焼きに決まってるじゃない

麦子 ええ！

伊織 何、その反応。ほら、泊めてもらってるからさ。やっぱ、何も手伝わないでいるのもなーと思ってる……目玉焼き、好きでしょ？

麦子 うん……

伊織 ね。だから、たーんと

麦子 ……すごく焦げ臭いんですけど……

伊織 ああ、あれは……失敗しちゃって

麦子 え

伊織 いやー、初めて作ったんだけどさー、難しいんだね

麦子 目玉焼きだよ……

伊織 いつも買ってるから。ほら、作るの、めんどくなくてさー

麦子 あの……

伊織 何？

麦子 ……

伊織 何、黙っちゃって。え、何？

麦子 ……

伊織 麦ちゃん、どうしたの？

麦子 朝は目玉焼きなんです……

伊織 あるよ。焦げたのなら

麦子 絶対嫌

伊織 え、そんな嫌？
麦子 (めっちゃ嫌そうな顔をする)
伊織 何それー……あ、コーヒー飲も

伊織、キッチンに行こうとする。

麦子 伊織ちゃん……

伊織 あ、卵？

麦子 え

伊織 だって、

麦子 ああ

伊織 何なら、今、買ってこようか？

麦子 いい

伊織 ？

麦子 大丈夫だから。伊織ちゃんもすぐ出て行くでしょ？

伊織 コーヒー飲みたい

麦子 コーヒー飲んだら、すぐ出て行く、でしょ

伊織 ……そう簡単な問題じゃないんだけどね

麦子 ？

伊織 ああ、何でもない。ってか、あの焦げた目玉焼き、どうしよつか？

麦子 どうしよつかて……何個失敗したの？

伊織 全部

麦子 え

伊織 全部ゴミ箱でいい？

麦子 朝は……

伊織 知ってる。三日泊まって、朝はずっと目玉焼きだもん。正直飽きたけどさ、ほら、

麦子 そんなに好きなら作ろうって、腕奮ったんだけどさー

伊織 あの……

麦子 ？

伊織 いつまで……

麦子 ？？

伊織 伊織ちゃんは、……いつまでここに居るの？

麦子 そりゃ、仕事が落ち着くまでよ

伊織 え

伊織 言ってなかった？

麦子 ……数日間だけとしか……

伊織 うん、その時はね

麦子 そんなに変わるもの？

伊織 物事は流動的だからね。あ、コーヒーもらおうわ

麦子 (行こうとする伊織の腕を掴む)

伊織 ん？

麦子 ……

伊織 麦ちゃん、もう会社、行く時間だよ

麦子 (伊織の腕を放し、距離を取る)

伊織 さっきから変だよ

麦子 だって……

伊織 何？

麦子 あんまりだ

伊織 え、そんな？私、いるだけだけど……

麦子 朝は目玉焼きなの。白と黄色のコントラストに、ちよっと焦げた匂いの所にケ

麦子 チヤップかけて

伊織 あのさ、思ってたんだけど……ケチャップはないよね？

麦子 え

伊織 目玉焼きは醤油だよ。こう、ちよろちよろって

麦子 色が嫌

伊織 は

麦子 白と黄色を引き立たすには赤、ケチャップの赤じゃなきゃ

伊織 見るんじゃないんだからさ

麦子 見るのがいいの

伊織 見るのが？

麦子 好きなの

伊織 飽きない？

麦子 飽きません

伊織 だから、いつもじっと見てんの？

麦子 うん

伊織 ってか、何？仕事でしょ？

麦子 目玉焼き、見てないから

伊織 関係ないよね、それ

麦子 朝は、目玉焼きって

伊織 決めてるんだ？見るって

麦子 まあ……

伊織 昔から変わってたと思ってたけどね (去る)

麦子 私は……

伊織 (声) 捨てとくね

麦子 え

ゴミ箱に捨てられる音

麦子 ……

△行きたくない▽

伊織、コーヒーを飲みながら現れる。

伊織 あ、コーヒー、うまつ。え、泣いてんの？
麦子 ……何で、大人って働くのかな…？
伊織 知らないけど。大丈夫？あ、コーヒー飲む？
麦子 知らない
伊織 コーヒー、好きだったよね？
麦子 コーヒー飲んだと、大人みたいだから
伊織 何、その理由？
麦子 何か嫌なの…
伊織 コーヒー、別に大人とか関係なくない？子どもの頃、飲んでたよ、麦ちゃん
麦子 昔と今は違うから…
伊織 何？これから、仕事なんじゃないですか？そろそろ行く時間じゃないの？
麦子 ……
伊織 いつもバタバタしてるくせに。今日、休み？
麦子 会社、ありますよ…
伊織 じゃ、準備したら？私はいつも通り、後から出るんで
麦子 ……
伊織 …？
麦子 会社、行きたくない
伊織 は
麦子 もう行きたくない…
伊織 どうしたの？！
麦子 どうしたの？！
伊織 ええ？？
麦子 何で、働かなきゃなんなの？どうして満員電車に乗らなきゃなんない？
伊織 え……麦ちゃん
麦子 はい…
伊織 あなたが選んだんだよね？東京の会社に勤めるって
麦子 はい…
伊織 東京は……満員電車、仕方なくない？
麦子 ……
伊織 地元はさ、車じゃない？
麦子 はい…
伊織 車は、そういう点、快適だよ。一人だから
麦子 私、ペーパーで…
伊織 そうなんだ……じゃ、地元に戻ったら、
麦子 それは無理、絶対嫌
伊織 何、その勢い！駄目なの？
麦子 お母さん、苦手だし…
伊織 麦ちゃんのお母さん、全然違うよね？ハキハキしてるし
麦子 うん……私、家の中でも浮いているんだ
伊織 家族だからって、性格が同じって訳でもないしさ
麦子 それに、私は……働きたくないんだ、もう

伊織　なんてこと、さらっと
麦子　疑問に思ったこと、ないの？
伊織　疑問とはなくない。働かないと、生活できないでしょ？
麦子　それはそうだけど……
伊織　私は、労働って素晴らしいと思うよね
麦子　伊織ちゃん、仕事は？
伊織　今日は午後から。大都会の様子も知っとけて、上司がさ
麦子　でも、地方のタウン誌で都会に来るって……
伊織　取材よ、取材。みんな、都会好きなんだもん
麦子　都会か……
伊織　え??住んでるのに、「都会か……」とか笑っちゃうんだけど
麦子　まあ……そうだね……
伊織　もうこっち、何年だっけ？
麦子　七年
伊織　あ、そんなに？
麦子　伊織ちゃんとも七年ぶり
伊織　だって、麦ちゃん、こっち帰って来ないから
麦子　……
伊織　まあね、帰って来なくても、元気ならいいんだから
麦子　……
伊織　気になる？
麦子　ううん、別に……
伊織　麦ちゃん家は変わってないかな。麦ちゃんのお父さんもお母さんも
麦子　たまに
伊織　ふーん
麦子　ケンカになるから……
伊織　(笑う)
麦子　笑わなくていいよ
伊織　似たもの同士だからなって思っ
麦子　そんなこと、ないから
伊織　そういう所。急に気が強くなる所、お母さんにそっくり
麦子　……伊織ちゃんは？
伊織　ん？
麦子　家
伊織　ああ、実家は兄貴夫婦がいるからさー、最近ほとんど寄らないかなー……
麦子　……
伊織　麦ちゃん、兄貴にいじめられてたよね。子どもの頃
麦子　拓巳(たくみ)君を伊織ちゃんがいじめて……
伊織　こらしめてたの。バカ兄貴なんだもん、女の子いじめるなんて。でしょ？
麦子　顔は同じなのに
伊織　一卵性双生児だから、そんなことより仕事

間

麦子 行きたくない……

伊織 ね。何で、会社行きたくないの？

麦子 ……

伊織 気になるじゃない。ね、何で？

麦子 ……

伊織 セクハラ？パワハラ？

麦子 ……

伊織 何？何？

麦子 ……

伊織 まー、言いにくいこともあるもんね

麦子 時間って、無限じゃないんだって思ったことない？同級生が次々、結婚、妊娠、お

伊織 母さんになっていく時代が終わっての今

麦子 そういう時期だよ、麦ちゃん達は

伊織 ラッシュで、そのラッシュに乗り遅れて、ボーとしてるの

麦子 人にはその人のペースがあるんだから、気にしないこと

伊織 でもさ、自分の時間、好きでもないことに使うのって、勿体ないと思わない？

麦子 ……結婚したいってこと？

伊織 じゃなくて。小さい頃はそれこそ、遊んでたら良かったじゃない。好きなこと、

麦子 いっぱいして、毎日楽しくて……でも今はさ、働くばかりで……

伊織 ま、働くから、好きなこともできるんじゃない？

麦子 ……好きなこと、わからなくなった

伊織 またまた

麦子 自由じゃないから……

伊織 自由じゃないからって、……え？

麦子、動かなくなる。

伊織 寝た？

麦子 私は……もう疲れた

伊織 疲れた？

麦子 うん……

伊織 麦ちゃん。あなた、私より先輩だよ？

麦子 私……社会に溶け込めない……

伊織 ほんと大袈裟だよ

麦子 伊織ちゃんにはわからない話だろうけど

伊織 麦ちゃん。そんなの、きつと勘違いだよ。大したことない

麦子 大したことあるって。疲れない？無理して周りに気使っ、てじつと時間が過ぎるの

伊織 を待つ、刻々と待つ中にもいろいろありますよ。「やれ、働け」「ぼさつとしない

麦子 の」「気効かないのね」「何しにここに來てるの？」何しにって、私は別にここに

伊織 いたい訳じゃない。仕方なくいる訳ですよ、気まで擦り減らして。こっちは好きで

麦子 もない所に我慢してるんです、なのに……どうしてそんな風に言われなきゃなんな

伊織 いんですか、本当……ただ時間が自分以外のことに消費されて過ぎていくの、もう

嫌なの

伊織 やりたいことあるの？

間

麦子 ……別にある訳じゃないけど……

伊織 なら、ね

麦子 ……

伊織 お金があるっていいよ。自由よ。それを得る為に頑張れ

麦子 お金がなくても自由だった

伊織 え

麦子 子どもの頃。あの時は幸せだった

伊織 今も幸せじゃない？

麦子 伊織ちゃんは自分の人生を生きたくないの？

伊織 ちよっと。私も自分の人生は生きたい。でも、それとこれとは違うんじゃない？

麦子 何でそんな風に言うの？

伊織 何にそんなこだわるの？

麦子 子どもの頃は何だってできた……だから……

伊織 それ、今もだから

麦子 会社に行ったって、私の代わりなんて誰でも務まるよ。会社に来たメール、返信し

伊織 て、できた資料を印刷して綴じて、郵便物作って送って……誰だって、できる

麦子 他の仕事、やりゃいいじゃない？好きで入った所だよ？何って言ってたっけ？あ、

伊織 確か、紅茶の通販だったよね。その、ホームページ作成して、フレイバーティー

麦子 をバンバン売るんだーって、運営……やってないの？

伊織 ……

麦子 やるって言ってなかったっけ、七年前？それでこっち来て……

伊織 外から見る好きは、中に入っても好きとは限らないって学んだ

伊織 え？

麦子 私、やることはやってきたと思う……でも、噛み合わないんだ、全てが

伊織 何もない方がおかしいよ。何事も成長、成長

麦子 伊織ちゃんと私は違うから。口で言うみたいに簡単じゃないんだよ。そんなに飄々

伊織 としてられない、私は……

麦子 ってか、自分を変えるって心機一転計って、就職したんじゃないの？

伊織 言わせないで

麦子 諦めなくても良くない？

伊織 私には適性がないんです……

麦子 何の？

伊織 向こうが求めているデザインと違うって

麦子 ……

伊織 ホームページの見せ方。デザイン力。パッケージ力。

麦子 そんなのはおおい

伊織 私は、可愛くした方が若い世代の子にも人気出ると思うからさ、だから、可愛いア

伊織 イコンとか商品に使えるように作ったりしたいよ。でも……

伊織 駄目なんだ

麦子 コンセプトと違うからって……どうしてやる気を削ぐことが上手いんでしょう、会社って

伊織 まあね。コンセプトがあるからね。どうしてもイメージを崩せないもんだよ、仕事って

麦子 伊織ちゃんもそう思うの？

伊織 仕事だから。その枠の中でベストを尽くすのが仕事だよ

麦子 そんな大人みたいなの……

伊織 もう大人でしょ、お互い？

麦子 ……

伊織 麦ちゃんが納得できないのもわかる。めんどくさいことばかり

麦子 ……

伊織 でも、会社休むのとは関係ないでしょ？

麦子 ……

伊織 頑張ればいいじゃん

麦子 頑張れって言うけど、いつまで頑張ればいいの？

伊織 自分で決めれば？え、自分のことだよ

麦子 ……

伊織 さっきから思ってたんだけどさ、全部、自分決めて、やればいいよね？過ごし方

麦子 だって、

伊織 自分の気の持ちようが変わる訳だし……

麦子 ……

伊織 子どもの頃はさ、本当学校行って帰れば、好きなこと、ずっとして……あれはあれで楽しかったし、今は稼いだお金を使える楽しみだったり、昔と比べたら、すごい自由じゃない？理想と現実ごっちゃになっちゃうのは……そういうこだわりが強いのが麦ちゃんのおもしろい所だけど、でも、どうか、全ての人が受け入れてくれるとは限らないし……行動しないと何も始まらないから。とにかく、会社、行ってきたよ。で、今言った仕事させてもらえるように頑張ってきたよ

麦子 ……

伊織 自分の思ってることの方がいいなら、企画書書いて、みんなを動かせばいいじゃない

麦子 い 昔はそういう気持ちもあった。でも、もうそんなの意味ないの……違うものは駄目

伊織 なんだよ

麦子 過去と今は違うんだから

伊織 ……

麦子 やるだけ、やってみなよ

伊織 でも……

麦子 ほら、準備しないと。片付け、やっておくから

伊織 ……

麦子 ?

伊織 伊織ちゃんは何？

麦子 私、知ってる

伊織 何を？

会社、辞めたって

……

伊織 何で嘘付いてるの？

……

伊織 ああしろ、こうしろ……自分は辞めたのに？偉そうなこと言っても、そんなの、信じられないから

伊織 いや、私は会社を辞めるつもりはなかった

伊織 じゃ、私の所に来た時に言えばいいじゃない？……友達じゃないの、私たち？小さい頃から一緒に遊んで……私は、伊織ちゃんのこと、……すごいわがままで面倒臭くって、でも、優しくって、いつも助けてくれて……私、そんな頼りないからな……さりげに酷いこと、言うな……

伊織 ？？？だって現に

伊織 言える訳ないじゃない

？

伊織 リ・ス・ト・ラ。私、リストラされたんだ

伊織 リストラ……？

そ

伊織 何で……？

伊織 それは私のセリフ。リストラされるなんてねー、思ってもみなかった……私、まだやりたいこと、あったんだよ

伊織 意味わかんない

伊織 私も未だにそう思ってる……地元でやってる機関誌……もっと読んで欲しいじゃない。でも、古臭い街でしょ？都会から、ちよつと有名な洋菓子店のパティシエが自分のお店をさ、なんとあの街で持ったんだよ

伊織 あんなに寂れた街なのに

伊織 そういう所(笑う)ほら、私、甘いのが好きでしょ？ずっと前から知ってて、すごくおいしいの、あそこのアップルパイ。みんなに良い物を伝えるのが私の仕事だから、そのこと紹介したら、老舗の、いや寂れたアップルパイ売ってる所がクレームを付けてきて……本当においしいと思ってるなら、味で勝負しなさいよ

伊織 それが原因で……？

伊織 ……好きな物のこと、書いた筈なのにな……

……

伊織 だから、好きなことで働ける場所がある、麦ちゃんが羨ましい。ってか、何で知ってたの？

伊織 拓巳くんが……何も言わずに出てきてるんだよね……？

伊織 何で？

伊織 拓巳くん、結婚する時にこっちで挨拶して、それでライン

伊織 ああ、そっか。華さん、こっちの人だったもんね……って、言っても……もう、私の人生だからね。好きにやりたいの。よくわかんない奴の、よくわかんないプライドだか、エゴだかそんなものに、私の好きな世界の邪魔されたくないのでも、

伊織 知ってる？今度パパになるの。麦ちゃんのこと、いじめてた兄貴がよ……

伊織 伊織ちゃん

伊織 私も心機一転図りたいの。もう一度、好きなことにかけるにはこれくらいやらないと。新しいものを得るには、持っているものは手放さなきゃね

伊織 別に帰る場所はあるも……

伊織 それ位、やりたいの。好きなことを……

伊織 頑張らずに、メソメソしてる麦子さんにはわからないか？

麦子 ……

伊織 そんな顔しても、やらない限り、結果変わるから

麦子 ……

伊織 ほら、行く用意して

麦子 逃げたくせに……

伊織 ……

麦子 伊織ちゃん。今の全部言い訳。ちゃんとみんなに言って、次に進めばいいじゃない。

伊織 拓巳くん、私に電話してきて、伊織ちゃんのこと、すごく心配してて……お嫁さん

伊織 も気にしてるって……それ、周りを不安にしているだけで、良くないじゃない？

麦子 そうかな？

伊織 絶対にそう

麦子 自分のことは棚上げで？

伊織 私だって……ちゃんと言うことは、言った方が……ちゃんと戻れるように。そう

麦子 じゃなきゃ、幸せじゃない。と思うんだ……過去があつての今なら、伊織ちゃんに

伊織 とつて大事な人たちじゃない？それなのに……そういうの……

伊織 あー、心配して損した

麦子 ？

伊織 麦ちゃん、大丈夫だよ

麦子 ……何のこと？

伊織 仕事するより今言ったことの方が難易度高いんだからさ

麦子 ……

伊織 それに、私、戻るつもりないしな

麦子 え

伊織 という訳だから、仕事が決まるまで、ここにいるから

麦子 ええ！？

伊織 じゃないと、仕事に就けないから。住所借りて、今、履歴書作ってんの

麦子 何やってんの！？

伊織 就活よ、就活

麦子 何で住所

伊織 ほら、地元の住所じゃ、向こうも不安じゃない？本当に働く気があるかって思われ

麦子 るかもしれないし

麦子 私の家なんだけど

伊織 わかっている。だから、その辺は上手いことやるから安心して

麦子 伊織ちゃん

伊織 あーあ。何でもっと早くに出てこなかったんだろう……ちょっと後悔

麦子 私、一言も聞いてないから

伊織 今、言った

伊織ちゃん、めちゃくちゃ。小さい時と変わらない
伊織 そう
麦子 うん。変わらない
伊織 麦ちゃんもだよ
麦子 違う
伊織 昔と変わらないけど
麦子 伊織ちゃんは怖くないの？
伊織 怖い……何が？
麦子 ……例えば、今、今日中に判断しないといけないことがあって
伊織 うん
麦子 それはどちらも、良い面も悪い面もあって、比較できない
伊織 うん
麦子 でも決めて、やらないと駄目なの
伊織 で？
麦子 うん……
伊織 いや、麦ちゃんはどうするの？
麦子 わからない……どうしたらいいのか……
伊織 麦ちゃんのことなのに？
麦子 ……
伊織 ふーん……さっきは動いてたよ
麦子 さっき？
伊織 ほら、私に言ってくれたでしょ？
麦子 あれは……なんか……勢いで？
伊織 それでいいんじゃないの？
麦子 え
伊織 やってみたいらしいんだと思う
麦子 ……それじゃ、会社では通用しないって……わかってるから、わかってるからどう
伊織 しようもできないのに……
伊織 後悔はないよね
麦子 え
伊織 私は考えるだけ考えた上で、どうしてもそれを記事にすることが私にも、読者だっ
麦子 たり関係するみんなにも良いと思ったんだ
伊織 ……
麦子 ま、次、あの狸親父に会ったら、一発かましてやりたいところだけど、そのおかげ
伊織 で今ここにいて、こっちで就職できるチャンスができた訳よ
麦子 強引、……過ぎない？
伊織 強引さがなくっちゃ、自分の人生なんて作れないでしょ？
麦子 つくる？
伊織 そうだよ。人生は与えられるかもしれないけど、中身は自分でつくれる
麦子 占いとかは？運命ってあるじゃない？
伊織 雑誌の占いとか見るタイプ？
麦子 うん。ああいうのって、なんか安心するから
伊織 みんな、安心志向なんだよな。私、ああいうの信じない

麦子 雑誌作ってる人なの？
伊織 信じて、何になるの？
麦子 指針だよ、今週とか、今月とか、いろいろの……雑誌作ってる人なのに信じてないの？
伊織 それ、関係ある？占い好きだったら信じればいい。けど、私は自分の手で掴みたい……
麦子 運命って、そういうものじゃないの？
伊織 え！
麦子 いや、誰でもあるよ、行動力なんて。そんなに驚くことじゃないけどな

間

麦子 伊織ちゃんと私は違うから……
伊織 まー、窮屈ね。自分で自分を監視して……失敗なんてことあるのかな？
麦子 ! 伊織ちゃんと私は違うもんね……わからなくて、当然だよ
伊織 認めなきゃ、失敗じゃないし。次があるんだよ、続ける限り
麦子 次なんて……
伊織 間違ったら、やり直せばいいんだって。人間っていいよね、そういう自由があるんだから
麦子 ……
伊織 自由なんだよ
麦子 私は伊織ちゃんみたいにはなれない、麦子、何もない麦子なんだって
伊織 大袈裟だな……麦ちゃんには麦ちゃんのできることがあるんだから。それを待つてる人もいる筈だし
麦子 私を待ってる……？
伊織 そうだよ。決まってるよね、そんなの。ほら、行かないの？
麦子 え
伊織 いや、時間
麦子 そんなのでいいの？
伊織 そんなのって？
麦子 私は何かにならなくっちゃ、役立つ人間にならなくっちゃ……ずっと思ってたのだから。頭の中、窮屈じゃない？そういうの
伊織 焦げた目玉焼きじゃないんだ……
麦子 へ？
伊織 私は焦げた目玉焼きみたいに、捨てられる存在だって……だって、役に立てないって、そういうことでしょ？
麦子 ……
伊織 ……
麦子 ……だから……

着信音

麦子 ……
伊織 出ないの？
麦子 ……

着信が止む

麦子 ……

ハガンバレの目玉焼き▽

伊織 (ポケットから卵を取り出し) じゃーん。一個だけ残ってました。私、麦子さんの為目玉焼きを作ります

麦子 え？

伊織 目玉焼き見ないと、行けないでしょ？仕事

麦子 だけど

伊織 卵は買えばあるし

麦子 伊織ちゃん、焼けないよね

伊織 ゲーム、ゲーム。で、うまく焼けなかったら、休んじゃえ

麦子 な！そんな勝手な

伊織 会社休もうとしている、よね？なら、楽しんでやってみて、うまくいかなかったら、それでもいいんじゃない

麦子 ……

伊織 自分で決めれるんだから。あ、うまくできなくて、行きたくても行けなかったって後から言

伊織 伊織ちゃん

麦子 何？

伊織 私、できるようになるのかな……

麦子 さあ？

伊織 あそこにおいて、やりたかったことをできるように、……と言うか、一年前。私、大失敗しちゃったんだ……新商品の売り出しの時にサイトの更新が上手くできなくて、その上、サーバーも落ちちゃって……あれからキーボード叩くの、怖いんだ……また、同じことがおきるんじゃないかって……だから、デスクは避けるようになって……ちゃって……そしたら、仕事、どんどんさせてもらえなくなっちゃって……

伊織 ……

麦子 七年前の私を思い出せるのかな……

伊織 さあ……待ってるだけじゃ、ね。それに麦ちゃんの話は、麦ちゃんにしかわからないから

麦子 ……

伊織 ……

麦子 昔。学校に行けなくなりそうな朝があつて

伊織 ……

麦子 その日、お母さんのおばあちゃんが泊まりに来て、卵二つ使って、目玉焼きとこ
うケチャップで「ガンバレ」って……私、そんなこと、お母さんにしてもらったこ
となかったから、うれしくて……

伊織 それで目玉焼き？

麦子 うん。おばあちゃんはその年に亡くなっちゃって、離れてたから、思い出って、そん

伊織 なにないんだけれど……

伊織 いいおばあちゃんだね

麦子 うん……だから、目玉焼き見ると、安心するの

伊織 ……今も見てるんじゃない？きつと……そう思ってる方がおばあちゃんもうれしい
よ

麦子 伊織ちゃん？

伊織 私の手を煩わせるつもり？

麦子 え

伊織 焦がしちゃうけど、勘弁ね

麦子 ええ！？目玉焼き、よね……？

伊織 器用じゃないもの。これが最後の一個だから

麦子 目玉焼きだよ？

伊織 上手くできた試しがない

麦子 伊織ちゃん……

伊織 でも、今日は上手くできるかも。散々失敗したしね。よし！それでは

伊織、卵をフライパンに打ち付けだす。

と、とっさに麦子、スマホを手にする。

麦子

（電話）すみません。さっき、電話いただいて……ちょっと離れていたもので……
はい。ええつと……ごめんなさい。家を出るのが今からなので、ギリギリ。ギリギ
リに着きそうです。え？……はい。そうなんです？わかりました。間に合うように
努力します……（切る）

伊織 ! 行ってくるんだ？

麦子 うん……見つけたと思って思った、私を……七年前の私かもしれないし、遠い昔の、
伊織ちゃんと遊んでいた頃の私かもしれない……とにかくいつでも楽しいって思え
てた私を

伊織 そ

麦子 それに

伊織 ?

麦子 伊織ちゃんみたいに私も生きてみたい

伊織 私？

麦子 めちゃくちゃな所は真似しないけど

伊織 言ったな

麦子 早く仕事決めてね

伊織 うん

麦子 行ってきまーす

家を出た、麦子。
見送る伊織。

伊織
……あ

伊織、手にしていた卵がゆで卵だとわかり、笑う。

伊織
……あーあ、私も早く固まるといいな……

そして、殻をむいて

伊織
さて、今日こそ決めるか。自分の仕事、勝ち取るぞ。よっしゃー

伊織、ゆで卵を食べ、

そして、意気揚々と外へ出かけていく。

おしまい